

【アイデア部門】

入選 立岡 早苗

マークで世界を広げよう!!

人間は、自分が持っているものさしや自分が見えていることでしか世界を測れないことがよくある。その為に、妊婦さんはまだ妊娠初期の頃は誰も気づかない故、電車や道でしんどさがわかってもらえず嫌な思いをしたり、万が一意識を失った時にすぐに妊娠だと気付いてもらえるように『マタニティマーク』のキーホルダーを持っている。また、コロナが流行し始めた時、何らかの事情でマスクが着けられない方が誹謗中傷されるといった事例もあった。その為、『持病でマスクが着けられません』などのキーホルダーや缶バッジを付けておられた。

その様な事を踏まえ、『白杖を持っているのに携帯を見たり新聞を読んでいるのはどういった事だ』などという心無い声をぶつけて来られて嫌な思いなどが少しでも減るよう『視野が狭いです』や『真ん中が見えにくいです』などイラスト付きで伝わるように缶バッジやキーホルダーを作成するのは良いのでは無いかと考える。『ヘルプマーク』だけでは、そのマークが持っている意味が多過ぎて気付いてもらえないかもしれない。その缶バッジを見ても何も変わらない人もいれば、視野が狭いとは?等と調べたりし、沢山の眼の病気があること知って考え方を変えてくれる人もいるかもしれない。

そうすれば、色んな人にとって息がしやすい世界に少しだけ変えることができるかもしれないと思った。

審査員コメント

確かにヘルプマークだけでは、いざという時にどのような支援が必要なのかがわからないので、誰が見ても分かる「こんな支援が必要」のバッジがあれば良いと思います。

立岡 早苗

視能訓練士養成校 学生